湖西市地域公共交通計画（概要版）

1. はじめに

（1）地域公共交通計画の策定の背景

・湖西市では令和 4 年 3 月に湖西市地域公共計画（前計画）を策定し、以後、コーちゃんバスやコーちゃんタクシー、企業シャトル BaaS や共創・MaaS 実証事業（今年度予定する土日祝日での公共ライドシェア）、交通空白地解消プラットフォーム（今年度以降予定）など、様々な取組みを実施してきました。

・民間バス事業者が撤退した中でのコーちゃんバスによる定時定路線を維持し、市内全域でのコーちゃんタクシーの実施、企業バスを活用した地域交通など、公共交通（鉄道、コーちゃんバス、コーちゃんタクシー）を利用する方は以前よりも着実に増加し、計画の成果が出ていると言えます。

・一方で、今後は人口減少が進み、高齢化による免許返納者も増加が想定されるほか、労働時間規制による運転手不足、公共交通利用者の減少などにより、今後発生する課題に対応した取組みを今一度考える必要があります。

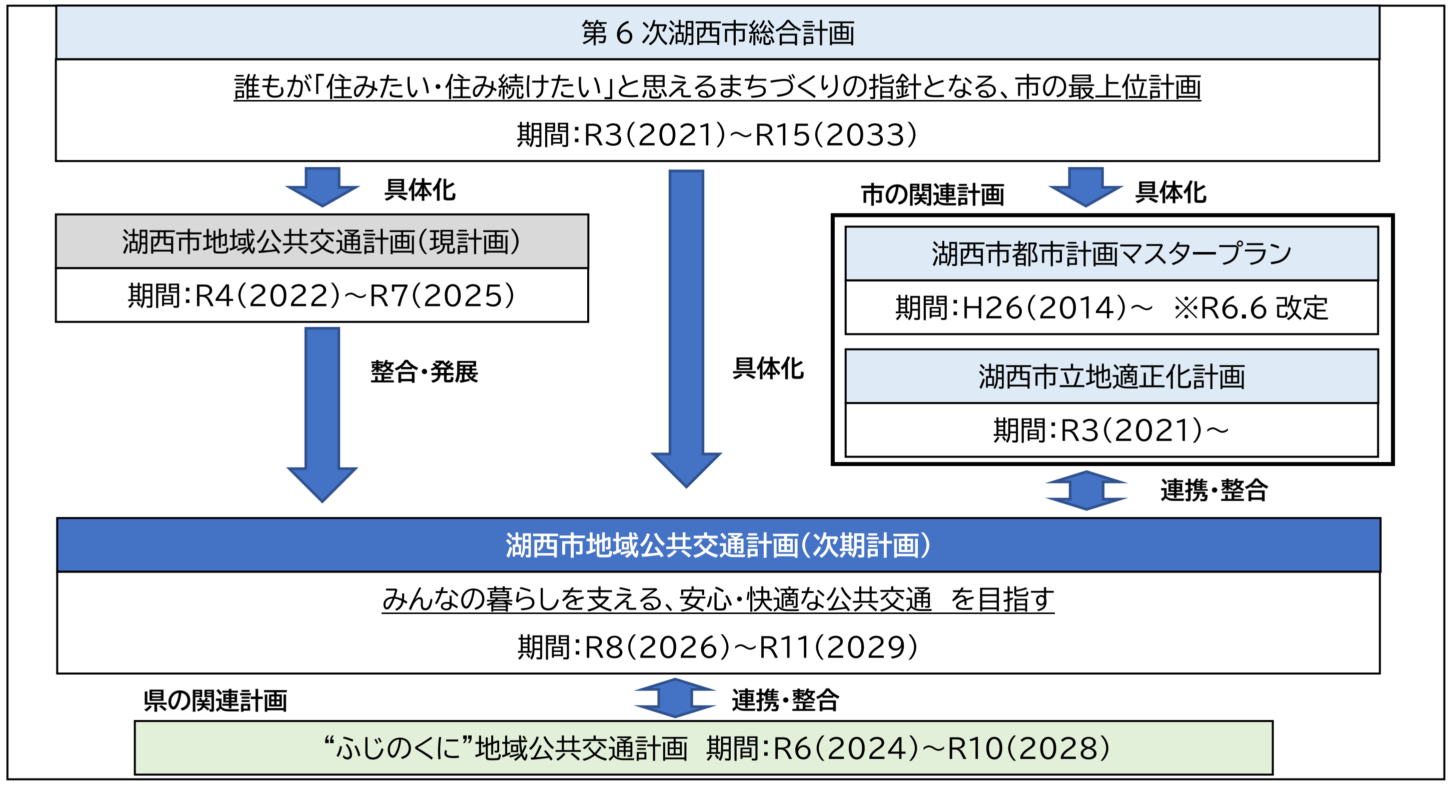
・令和 3 年度に策定した現在の計画は、今年度計画期間満了を迎えることから、本年度は次年度以降の取組み内容、公共交通の目指す姿について協議を行い、「湖西市地域公共交通計画」を策定します。

（2）計画の区域、期間

計画区域：湖西市全域

計画期間：令和 8 年度～令和11年度（4 年間）

（3）計画の位置づけ



2. 地域公共交通の課題

（1）利便性の向上

コーちゃんバスは、これまで市民ニーズに合わせた見直しを行っていますが、運行経路が長大で目的地まで時間がかかる路線もあり、交通空白時間が残るなどダイヤ設定の柔軟性が低くなっています。一方で、コーちゃんタクシーは運行内容の見直しにより、市内全域での利用や土日祝日の利用も可能となりました。これらの交通手段や企業シャトル BaaS、公共ライドシェアを含め、いかに利便性を向上するかが課題となります。

（2）時代・環境の変化（高齢化の進行、新技術）への対応

全国的に高齢化が進行し、本市においても 65 歳以上人口は増加傾向にあり、令和 20 年頃には団塊ジュニア世代が高齢者となり高齢化のピーク期を迎えます。免許返納者の増加や高齢ドライバーによる交通事故の増加が懸念されており、高齢者に対応した公共交通サービスの充実が喫緊の課題です。また、自動運転技術をはじめとする新技術の開発が進み、それに伴う制度の変更やその他デジタル化の進展が著しい中で、これらの技術の導入に向けた検討を進める必要があります。

（3）わかりやすい情報提供

コーちゃんバスの運行経路やダイヤが複雑化していることに加え、市内ではコーちゃんタクシーや企業シャトル BaaS など多様な移動手段が提供されています。さらに、これらの移動手段については市民の認知度が低い状況もあり、初めて利用する方や高齢者、市外からの来訪者等にとって、わかりやすい情報提供が必要となります。

（4）あらゆる資源の有効活用と公共交通サービスの効率化

コーちゃんバスやコーちゃんタクシーの運行には、年間約 1 億円程度の経費がかかっています。人口減少や少子高齢化による税収減、社会保障費の増加が見込まれる中、限られた財源で公共交通サービスを維持するためには、あらゆる資源を活用し、サービス水準の向上と運行の効率化を両立させる必要があります。

（5）異業種との連携による運行効率化、利便性向上、付加価値創出

地域全体で移動を支える仕組みづくりとして、更なる利便性向上や利用促進には異業種との連携強化が不可欠です。商業施設や医療機関と連携した運賃割引やサービス提供など、公共交通利用に対する付加価値の創出も求められています。

（6）公共交通軸各駅と地域・生活・観光の各拠点とのネットワークを強化

湖西市には公共交通軸となる鉄道の JR 東海道本線や天竜浜名湖線の駅が存在しますが、本市は自動車への依存度が高い状況です。市内の公共交通軸である鉄道の各駅と市民の日常生活を支える施設（生活拠点）や観光地（観光拠点）とを結ぶネットワークが不足しており、これらの拠点間を結ぶ交通ネットワークの強化が必要となります。

3. 地域公共交通の方針

3-1. 基本方針、目標

基本方針

公共交通は、市民の生活や活動を支える社会基盤であり、理想の姿を実現するために必要不可欠なものです。

上位計画や関連計画で求められる役割等を踏まえ、鉄道、バス、タクシーなどの地域の輸送手段を総動員し、多様化するニーズに対応することで、誰もが自由に、安心して移動でき、暮らしを支える公共交通を目指し、以下の基本方針を掲げます。

みんなの暮らしを支える、安心・快適な公共交通

～公共交通で「ひと」と「まち」をつなぐ～

計画目標

課題、基本方針を踏まえた計画目標、数値目標は以下の通り設定します。

目標1 安心して暮らせる公共交通 ―行きたいときにどこへでも行ける―

・安心して暮らせる公共交通の指標として、市民の公共交通に対する満足度、市民 1 人あたりの公共交通年間利用回数を設定します。

成果指標	基準値	目標値
（1）市民の公共交通に対する満足度 ①非運転者の公共交通に対する満足度 ②市民全体の公共交通に対する満足度	①32.9%（R7） ②31.1%（R7）	①50.0%（R11） ②50.0%（R11）
（2）市民１人あたりの公共交通年間利用回数	1.61 回（R6）	2.16 回（R11）

目標2 魅力ある公共交通 ―使いたくなる、出かけたくなる―

・魅力ある公共交通の指標として、公共交通を利用する人の割合を設定します。

成果指標	基準値	目標値
（3）公共交通を利用する人の割合	6.3%（R7）	8.0%(R11)

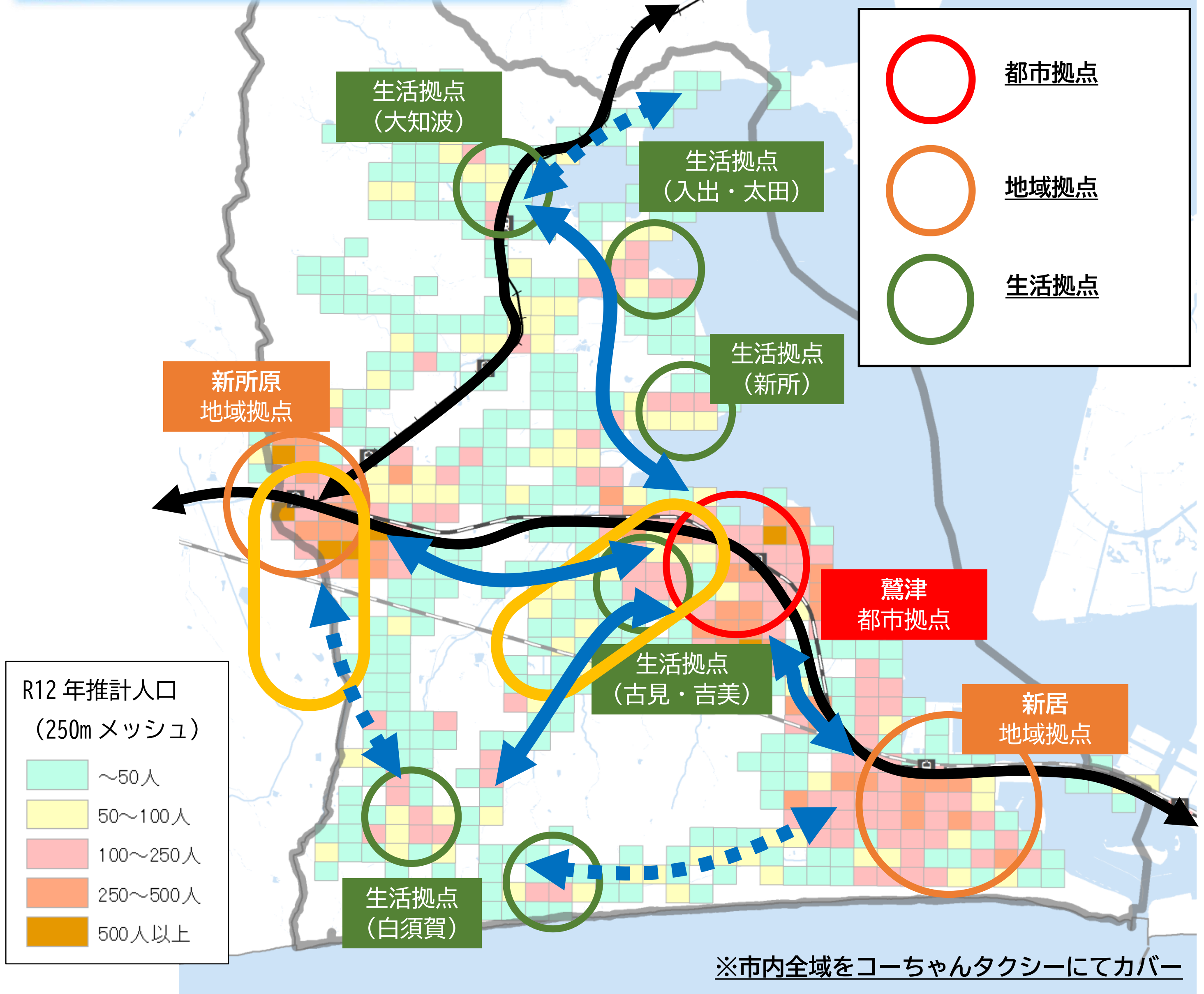
目標3 持続可能な公共交通 ―無理なく続けられる―

・持続可能な公共交通サービスの成果指標として、コーちゃんバス、コーちゃんタクシーの収支率、利用者 1 人あたりにかかる市の負担額を設定します。

成果指標	基準値	目標値
（4）コーちゃんバス・コーちゃんタクシーの収支率	11.83%（R6）	15.00%（R11）
【参考】コーちゃんバスの収支率 【参考】コーちゃんタクシーの収支率	10.18%(R6) 19.77%(R6)	12.16%(R11) 18.79%(R11)
（5）利用者１人あたりにかかる市の負担額	976 円（R6）	960 円（R11）
【参考】コーちゃんバスの利用者1人あたりにかかる市の負担額 【参考】コーちゃんタクシーの利用者1人あたりにかかる市の負担額	914 円(R6) 1,594 円(R6)	739 円(R11) 1,639 円(R11)

3-2. 地域公共交通の将来像

湖西市の公共交通の将来像は以下を設定します。鉄道、コーちゃんバス、コーちゃんタクシー、企業シャトル BaaS により、市内全域をカバーし、役割分担を明確にした交通体系を目指します。



4. 計画の全体体系図

基本方針

みんなの暮らしを支える、安心・快適な公共交通

～公共交通で「ひと」と「まち」をつなぐ～

地域公共交通の役割分担

鉄道	コーちゃんバス	コーちゃんタクシー	企業シャトル BaaS	タクシー
輸送量：大量輸送	輸送量：大量輸送	輸送量：少量輸送	輸送量：少量～中量輸送	輸送量：少量輸送
―都市間移動の軸― ・主に都市間を結ぶ	―市内公共交通の軸― ・拠点間を結び、まとまった需要や朝夕の通勤通学の需要に対応	・コーちゃんバスでは拾いきれない、ドアツードアの個人移動に対応	・コーちゃんバスの補完として、企業と連携（輸送資源活用）しながら、手薄なエリア・時間帯を埋める	・市外からの来訪、病院送迎などを中心に個別移動に対応

課題

- 課題① 利便性の向上
- 課題② 時代･環境の変化(高齢化の進行、新技術)への対応
- 課題③ わかりやすい情報提供
- 課題④ あらゆる資源の有効活用と公共交通サービスの効率化
- 課題⑤ 異業種との連携による運行効率化、利便性向上、付加価値創出
- 課題⑥ 公共交通軸各駅と地域･生活･観光の各拠点とのネットワークを強化

計画の目標

計画の目標①
安心して暮らせる公共交通
―行きたいときにどこへでも行ける―

計画の目標②
魅力ある公共交通
―使いたくなる、出かけたくなる―

計画の目標③
持続可能な公共交通
―無理なく続けられる―

事業内容

計画の目標１　安心して暮らせる公共交通 ―行きたいときにどこへでも行ける―	
1-1	公共交通軸の維持（ＪＲ東海道本線）
1-2	公共交通軸の維持（天竜浜名湖鉄道）
1-3	コーちゃんバス路線の見直し
1-4	コーちゃんタクシーの制度検証
1-5	湖西市企業シャトル BaaS の運行
1-6	非運転者の移動支援

計画の目標２　魅力ある公共交通 ―使いたくなる、出かけたくなる―	
2-1	公共交通利用による付加価値の創出
2-2	周知・啓発の強化
2-3	デジタル化の推進

計画の目標３　持続可能な公共交通 ―無理なく続けられる―	
3-1	交通事業者と連携した運転手等の人材確保
3-2	公共交通ネットワークの最適化
3-3	コーちゃんタクシーの乗合率向上
3-4	運賃収入以外の収入確保

事業の KPI

計画の目標１　安心して暮らせる公共交通 ―行きたいときにどこへでも行ける―	
1-1	JR 東海道本線　市内 3 駅（新居町駅、鷲津駅、新所原駅）の乗車人数
1-2	天竜浜名湖線　市内 4 駅（新所原駅、アスモ前駅、大森駅、知波田駅）の乗車人数
1-3	コーちゃんバスの年間利用者数
1-4	コーちゃんタクシーの年間利用者数
1-5	企業シャトル BaaS 利用者数
1-6	免許返納者のコーちゃんバス・コーちゃんタクシー利用者数

計画の目標２　魅力ある公共交通 ―使いたくなる、出かけたくなる―	
2-1	市内民間事業者や他の行政機関等と連携した利用促進事業の実施回数
2-2	50 円バス乗車人数
2-3	定期券購入、回数券の電子化

計画の目標３　持続可能な公共交通 ―無理なく続けられる―	
3-1	採用情報発信回数
3-2	バス１便当たりの利用者数
3-3	コーちゃんタクシーの乗合率
3-4	公共交通における運賃収入以外の収入

5. 目標を達成するための事業

目標１　安心して暮らせる公共交通　―行きたいときにどこへでも行ける―

１－１　公共交通の維持（JR 東海道本線）

・総合交通マップへの運行時刻の掲載など、利用啓発を図る
・鷲津駅、新居町駅及び新所原駅付近において、駐車場及び駐輪場を確保

１－２　公共交通の維持（天竜浜名湖鉄道）

・総合交通マップへの運行時刻の掲載など、利用啓発を図るとともに、沿線市町と連携して利用促進事業を実施

１－３　コーちゃんバス路線の見直し

・利用実績や利用者、交通事業者などの意見を参考に定期的に見直しを行い、利便性の向上、運行の効率化を図る
・GTFS（標準的なバス情報フォーマット）などのオープンデータを整備し、経路検索サービスに対応

１－４　コーちゃんタクシーの制度検証

・これまで実施してきたサービス拡充（市内全域化、土日祝日運行、便数拡大）の効果の検証
・スマートフォン等を活用した web やアプリによる予約システムの導入や、キャッシュレス決済の導入について検討

１－５　湖西市企業シャトル BaaS の運行

・今後も引き続き協力事業者との連携を図りながら、移動手段の確保・充実を目指す
・市民の認知度向上が課題であり、沿線施設での周知や、乗車体験会に付加価値を加えたイベントの実施など、積極的な周知・啓発活動を実施

１－６　非運転者の移動支援

・運転免許自主返納者へのコーちゃんバス、コーちゃんタクシーの優遇措置の継続、内容見直し
・75歳以上の高齢者を対象とした、バス・タクシーの利用料金の一部を助成する事業を継続し、周知を図る
・通学で公共交通を利用する学生を対象に、学生向けの割引回数券の導入を検討

目標２　魅力ある公共交通　―使いたくなる、出かけたくなる―

２－１　公共交通利用による付加価値の創出

・商業施設や飲食店、医療機関などを利用した方に対する運賃割引制度の導入や、公共交通を利用した方に対する事業者によるサービスなど、それぞれの利用促進に繋がる仕組みについて検討するとともに、協力可能な事業者を募る
・市外からの来訪者が、JR 東海道本線や天竜浜名湖線の駅から観光地や拠点へスムーズに移動できるよう、周遊手段のあり方を検討

２－２　周知・啓発の強化

・コーちゃんバスやコーちゃんタクシーの利用方法、登録方法等を直接説明する「出前講座」を継続実施
・買い物や通院、通学など、目的に応じた利用モデルを様々な手段で定期的に情報発信
・小学生を対象とした「夏休み小学生 50 円バス」、「コーちゃんバス乗り方教室」の継続実施
・鉄道駅やバス停でのバスマップやバスルート、時刻表等の案内強化

２－３　デジタル化の推進

・窓口申請が必要であるコーちゃんバス定期券の購入申込などを電子化することを検討
・コーちゃんタクシーについて、スマートフォン等を活用した web やアプリによる予約システムの導入や、キャッシュレス決済の導入について検討【再掲】
・GTFS（標準的なバス情報フォーマット）などのオープンデータを整備し、経路検索サービスに対応【再掲】

目標３　持続可能な公共交通　―無理なく続けられる―

３－１　交通事業者と連携した運転手等の人材確保

・交通事業者と連携し、市の就職イベントでの雇用情報の発信や、女性活躍推進事業を活用した女性向け企業説明会の実施など、人材確保の取り組みを支援
・公共ライドシェアに加え、自動運転技術についても、技術開発の進展や国の動向を注視しつつ、本市への導入可能性や課題について調査・研究を進める

３－２　公共交通ネットワークの最適化

・コーちゃんバスにおいて、運行効率が悪く、利用者が少ない路線では、デマンド型の乗合交通であるコーちゃんタクシーの実証実験結果を踏まえ、バスの見直しや新たな交通手段への転換を検討
・運賃外収入の確保などを組み合わせることで、公共交通全体の収支率の改善を図る

３－３　コーちゃんタクシーの乗合率向上

・各地区でさまざまな利用モデル等を掲載した啓発チラシを配布するとともに、コーちゃんバスと同様にコーちゃんタクシーにおいても市公式 LINE サービスを活用した情報発信を行うなど、SNS サービス等を活用し情報発信を行うことで、誰もが選択できる移動手段の１つとして認識してもらう

３－４　運賃収入以外の収入確保

・バス停オーナー制度について、地域と一体となって公共交通を支える仕組みとして、市内の事業者や団体に「バス停オーナー」となっていただき、バス停の維持管理にご協力いただく制度を実施
・コーちゃんバスの車体を広告媒体として活用する車両ラッピング広告を導入し、バス停オーナー制度と同様に運賃収入以外の収入確保を図る
・市内の事業者や団体を対象に、コーちゃんバスの車内外の広告利用モデルを提案し、さらなる協賛の確保を図る